

市議会12月定例会行政報告

桂城短大設置認可に『好感触』

市議会十二月定例会が招集された十二月七日、小畑市長が行政報告をしました。その中から主なものの要旨をお伝えします。

今定例会で審議された案件等については、一月十六日号でお知らせします。

秋田桂城短期大学について

秋田桂城短期大学については、今年四月に、秋田経済法科大学が第一次設置認可申請を行いました。七月には校地等の追加申請をし、十月下旬に文部省のヒアリングが実施されたところです。

大学では十二月に入ってから、更に求められている資料の提出や説明のため文部省へ日参している状態ですが、大学側の話では「面接審査、書類審査、どちらも厳しいものではあったが、結果としては好感触であった」ということで、県と共に喜んでいきます。

現在、大学では建設に当たっての実施設計を行っています。第一次判定で承認されれば、年明け

早々にも建設工事に入るようになっていきます。本市としては、今月の第一次判定をクリアできるよう、県と歩調を合わせながら強力に支援していきたいと思っています。またソフト面の事業として、十一月に本市で、学長予定者の宮城先生による講演会が開催されるなど、短大設置に伴う効果が目に見えるものになってきています。この短大が開学すると、学生と教員合わせて約五百人になります。市としては地域文化の向上だけでなく、消費拡大や民間活力によるアパート建設など、直接・間接の経済効果が大きい期待できま

すから、地域経済活性化の起爆剤になるものと確信しています。今後、積極的に取り組んでいきますので、よろしくご支援くださるようお願いいたします。

大館能代空港について

大館能代空港の起工式が、十月二十一日、運輸事務次官、国會議員、航空会社をはじめ関係者多数の出席のもと、十年十月の開港を目指し、現地で盛大に行われました。運輸省の七年度予算要求額は今年度の九五%増とのことですから、工事は大幅に進むものと期待しています。また、空港の顔となるターミナルビルは、特徴、機能などについて広く意見を伺うことが必要だという考えから、昨年は民間による懇談会を、今年は大館能代空港建設促進期成同盟会役員による懇談会を開催しました。たくさんのご意見をいただきました。ですので、取りまとめ次第、県北地域の意見・要望として県へ具申し

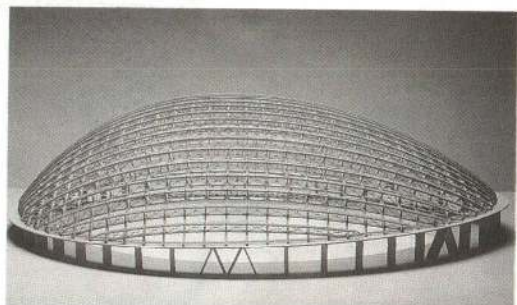


たいと考えています。更に、空港を活用した地域振興策を研究するために設置された大館能代空港活用研究会では、課題の絞り込みを終え、現在具体策の検討に入っていると、年度内には報告をまとめることになっていきます。

今後は、空港の利用促進や利用等航空需要創出活動が重要になってきます。同盟会の会長として、関係市町村や各団体との連携を密にし、地域振興のために努力してまいりますので、ご協力をお願いいたします。

大館地区多目的ドーム(仮称)基本設計について

この度、県が整備するドーム本体等の基本設計が公表されましたので、概要をご報告します。まずドーム本体ですが、規模的には当初の計画とほぼ同様で、長径約百七十五メートル、短径約百五十五メートル、最大高さ約五十二メートル、建築面積二万二千五百平方メートル、延べ床面



ドームの屋根構造。秋田杉大断面集成材が使われ、この上にテフロン膜が張られます

積二万三千三百平方メートルとなっています。フィールド面は人工芝で、両翼九十メートル、中堅百二十メートル。野球をメインとした設計で、客席下部にはダッグアウト、審判員室、放送席等が設けられることになっています。客席は、ベンチいすの内野席三千五百、人工芝の外野席一千五百、計五千席です。このほか、コミュニティゾーンとしての多目的室三室、九十人規模の会議室、バックスクリーンなどが設けられます。次に外構関係ですが、再三要望してきた結果、貯水池は当初に比べ四千平方メートル縮小され、そのスペースは駐車場や親水公園として利用することになりました。駐車台数は合計一千四百台になり、五千人数規模のイベントに対応できることとなります。